

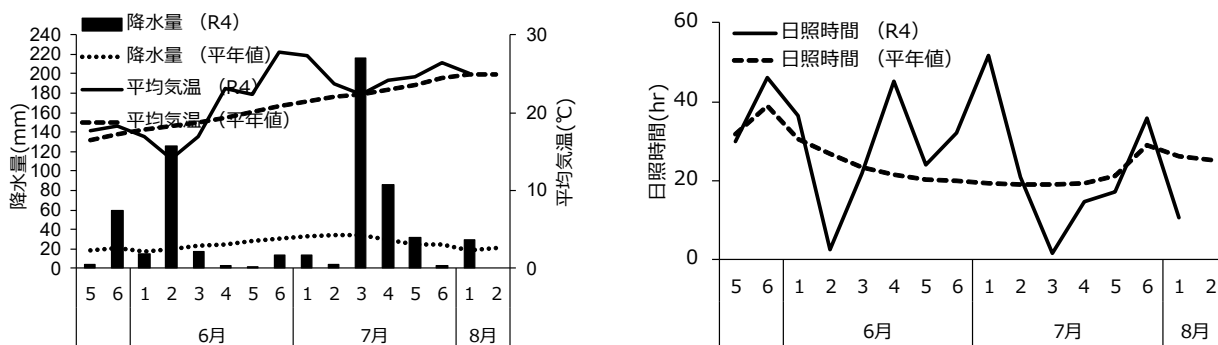
# 仙台大豆作情報

令和4年度第2号  
令和4年8月10日発行  
仙台農業改良普及センター  
TEL 022-275-8410

## 栽培管理のポイント

- ▷生育ステージを確認し、病害虫防除を適期に実施しましょう。
- ▷排水対策を徹底し、根の健全化を図りましょう。

## 1 気象経過



## 2 生育調査ほの生育状況 (8月8日調査)

品種 (地区)	調査年	播種日	主茎長 (cm)	主茎節数 (節/本)	分枝数 (本/本)	開花期
タンレイ (仙台市宮城野区岩切)	本年	6月20日	52.1	11.8	0.5	7月31日
	前年	6月10日	51.5	12.6	3.1	7月28日
ミヤギシロメ (仙台市若林区荒井)	本年	6月21日	47.1	11.5	2.2	8月6日
	前年	6月2日	72.2	15.0	4.8	7月30日
	平年	6月5日	65.7	14.2	4.2	8月3日

※「開花期」とは、初めて開花した株が全体の40~50%に達した日  
※「タンレイ」には平年値がありません。

### 【生育概況】

- ・生育調査ほにおいては、播種が遅れ、また7月中旬の大雨の影響により生育が遅れ、主茎節数や分枝数が前年より少なくなっています。
- ・開花期は、「タンレイ」が前年と比較して3日遅く、「ミヤギシロメ」は7日遅くなりました。

## 3 今後の栽培管理

### (1) 排水対策

- ・降雨が多く、ほ場が乾きにくい状況です。明きよの補修等を行い、根の健全化に努めましょう。

### (2) 病害虫防除

本年は、播種時の天候や7月中旬の大雨の影響によりほ場間の生育差が大きいため、開花や莢の状況等生育ステージをよく確認して防除を実施しましょう。

#### ①紫斑病

- ・病害虫防除所が7月29日に発表した発生予報では、**発生量が「やや多」と予報**されています。
- ・**開花期の20~35日後に1~2回薬剤防除**を実施しましょう。特にタンレイは紫斑病抵抗性が弱いので、必ず2回防除を実施しましょう。

- ・紫斑病は害虫との同時防除が可能です。大豆の生育ステージをよく確認し、適期に防除を実施しましょう。

## ②吸実性カメムシ類

- ・病害虫防除所が7月29日に発表した発生予報では、**発生量が「やや多」と予報**されています。
- ・開花期以降に発生が見られるほ場では、**着莢期と子実肥大中期の2回薬剤を散布**します。
- ・越冬地（雑草地、山林等）付近では発生が多くなる恐れがあるので注意しましょう。



成虫

## ③マメシクイガ

- ・病害虫防除所が7月29日に発表した発生予報では、**発生量が「やや少」と予報**されています。
- ・成虫の発生盛期は、概ね8月第6半旬～9月第1半旬と毎年ほぼ同じです。大豆の品種にかかわらず**1回目の防除は8月26日～9月5日に実施**しましょう。
- ・大豆作付4年目以降に被害が多いので**連作年数が長いほ場や、前年の発生が多かったほ場では特に注意**しましょう。



幼虫

## ④フタスジヒメハムシ

- ・成虫が若莢を食害し、そこからカビが侵入して黒斑粒（子実の表面に黒い点）や腐敗粒（白いカビで覆われる）となります。
- ・第2世代成虫が発生する子実肥大期（8月下旬～9月中旬）に防除しましょう。



成虫

## ⑤ジャガイモヒゲナガアブラムシ

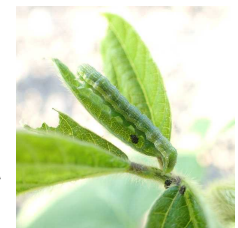
- ・吸汁されると葉に黄色い点々の吸汁痕が見られ、早期落葉を引き起こして収量や品質に影響を及ぼします。
- ・8月下旬から9月上旬に密度がピークに達するので、**多発した場合は防除**を実施しましょう。
- ・葉裏に寄生しているので、薬液が葉裏によくかかるように散布しましょう。



成虫（無翅虫）と食害痕

## ⑥オオタバコガ

- ・突発的に発生することがあるので注意が必要です。
- ・本虫は1個ずつ葉裏等に産卵します。中齢幼虫期以降は莢に移動して加害することから、被害が大きくなる傾向があります。**8月以降、発生を確認した場合は速やかに防除**を実施しましょう。



中齢幼虫

## ⑦ダイズサヤタマバエ

被害莢は一部が小さくなって虫こぶとなり、子実、莢とも生長が停止して落莢します。**開花後期から莢伸長初期に1～2回薬剤を散布**しましょう。

## (3) 雑草防除

コンバイン収穫では、成熟期に雑草が残っていると汚粒の原因となり、手取り除草が必要となります。このため、必要に応じて茎葉処理除草剤の使用や早めの手取り除草を検討しましょう。

## 4 東北地方の向こう1か月の天候の見通し（8月4日仙台管区气象台発表）

### 予報のポイント

○暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に太平洋側では、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。